令和 2 年 10 月 11 日　第 38 回石垣・埋蔵文化財部会提出資料

現天守閣解体申請に対する文化庁からの指摘事項への対応について

（１）現天守の解体・仮設物設置が石垣等遺構に与える影響を判断するための調査・検討について

指摘事項	内容	実施状況	有識者会議の協議状況
各分野の有識者による十分な議論と合意形成を行った上での必要な調査の実施			
外観総合調査の再検討 （目的：石垣の劣化状況の把握）	・天守台石垣の外観総合調査（石垣カルテ）の再検討・分析 ・天守台石垣の劣化状況の把握	**・実施済み**	・石垣部会（R2. 3. 20）で調査・分析結果について審議。概ね了承
	A **・天守台周辺石垣の外観総合調査（石垣カルテ）を再検討・分析。** ※軽量盛土で埋め戻す部分に関係する内堀石垣及び仮設桟橋に関係する外堀石垣	**・一部検討を要する部分を除き作業中**	・石垣部会（R2. 3. 20）で更なる現状把握の必要性指摘 **・一部について分析方法等検討中**
	・石材の熱劣化についての調査実施	・検討中	・今後相談
その他	・必要に応じて見直し・追加		
ア　内堀の地下遺構の把握、御深井丸側内堀石垣の状況及び安定性を確認するための追加発掘調査			
内堀底面の調査 （目的：地下遺構の把握）	・内堀内（堀底及び石垣根石）の発掘調査	**・実施済み**	・石垣部会（R 元. 12. 27）で調査結果について審議、概ね了承
	B **・地中レーダー探査等に基づく内堀底面遺構の発掘調査（追加）** **・小天守西側堀底の地中レーダー探査（追加）**	**・現状変更許可手続き中**	**・全体整備検討会議（R2. 9. 25）で実施について了承**
御深井丸側内堀石垣の現状把握	・内堀内（堀底及び石垣根石）の発掘調査	**・実施済み**	・石垣部会（R 元. 12. 27）で調査結果について審議、概ね了承
イ　御深井丸等の地下遺構把握のための発掘調査			
御深井丸等発掘調査 （目的：地下遺構の把握）	C ・御深井丸等の仮設構台、桟橋設置地点の**地下遺構把握のための発掘調査**	**・今年度実施予定** ・天守礎石の整備方針については今後検討	**・今回の審議事項** ・天守礎石の整備方針は、今後全体整備検討会議に諮る予定
ウ　大天守台北面石垣の孕み出しについての調査・検討			
孕み出し部分の裾部の発掘調査	・孕み出し部分裾部の石垣及び地盤の状況を把握するための発掘調査	**・実施済み**	・石垣部会（R 元. 12. 27）で審議。調査結果について概ね了承。
エ　天守台石垣背面等の空隙についての調査			
天守台の石垣背面等空隙調査	D **・大天守台北面石垣の孕み出し部分におけるより精度を上げた調査（レーダー探査）**	**・実施中**	**・全体整備検討会議（R2. 8. 3）で実施について了承**
天守台以外の石垣背面等空隙調査	・天守台周辺石垣の外観総合調査の再検討をし、空隙調査等の追加の必要性を検討		

（２）現状変更を必要とする理由について

指摘事項	内容	実施状況	有識者会議の協議状況
現天守解体理由の整理	・現天守解体の理由が耐震対策のみか、木造天守復元のためかの検討・整理	**木造天守復元の基本構想として、作業中（精査・補強）**	**・今後、全体整備会議、天守閣部会に諮り、基本構想（案）としてまとめる**
木造天守復元に係る計画	E **・木造天守復元に係る計画の具体的内容（基礎構造の検討含む）の追加提出**		**・基礎構造の検討については、調整会議により詳細な検討を行っていくことを全体整備検討会議（R2. 9. 25）で了承**

昭和32年7月9日

名城再建　近く本格的工事へ

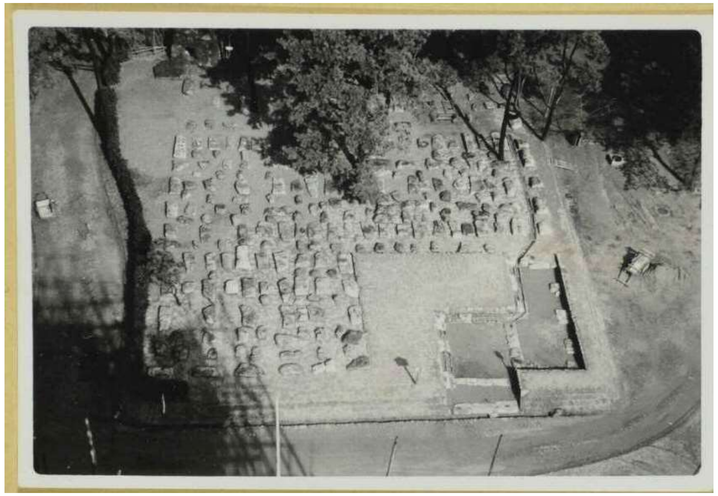
大天守閣跡礎石掘り急ぐ

名城の再建工事は去月十二日の起工式からいよいよ準備がすすめられているが、小天守閣跡の礎石掘起しがほぼ終ったので、八日から大天守閣跡で礎石が掘りはじめられ、近く完成までの工程を作成、本格的な工事にとりかかる。

名城再建の工事始まる　デリックで石をおろす作業

小天守閣跡の礎石は約八十個で二ノ丸近くの江戸の石垣側に移され、大天守閣跡の礎石三百十個はつぎつぎと掘られ、クレーンやトロッコで搬出をいそいでいる。この大天守閣跡の礎石は六尺×三尺の大きなものもあり、築城技術をしのぶため文部省の意向にしたがい現状のまま猿面茶室付近に移し、名城の完成後は展望台からも礎石が並んでいる状態がみえるようにする。

また市の名城建設事務所（本丸御殿跡、四十六坪）や明城の事務所（鉄筋建てパイプ造、五十二坪）もできたので、礎石を取除いたあとに骨組工事で空地を埋める本格的工事にとりかかるのも間近である。

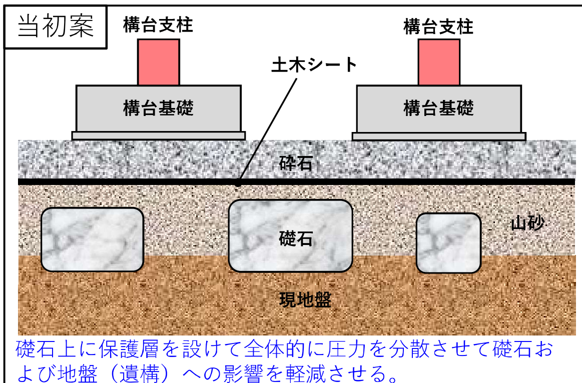


昭和 34 年後半 「名古屋城改築工程写真　其二」より
（市政資料館所蔵）

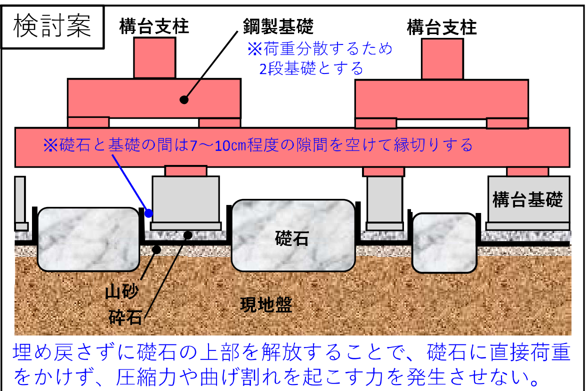
現天守閣 1 階北側窓からの俯瞰
※樹木の陰になり、全体像の眺望を阻害するとともに、日陰となることで湿潤状態が長く続く

傍線部の記事（中部日本新聞）
- 昭和 32 年 7 月 9 日時点で堀起し搬出中
- 大天守閣跡の礎石の数は 310 個
- 築城技術をしのぶため文部省の意向に従い、現状のまま猿面茶室付近に移設
- 完成後は展望台からも礎石が並んでいる状態が見えるようにする

御深井丸礎石置場における構台基礎



礎石上に保護層を設けて全体的に圧力を分散させて礎石および地盤（遺構）への影響を軽減させる。



埋め戻さずに礎石の上部を解放することで、礎石に直接荷重をかけず、圧縮力や曲げ割れを起こす力を発生させない。
地盤（遺構）にかかる総重量は当初案と同等で、荷重を広範囲に分散することで遺構への影響をさらに軽減させる。